

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査



図 62 調査区位置図



写真 185 調査地点遠景 (南上空から)



写真 186 調査地点近景 (東から)

1. 教育学部附属山口小学校雨水管改修

工事に伴う立会調査

調査地区 小学校正門西側空地

調査面積 24㎡

調査期間 平成28年12月21日～1月5日

調査担当 横山成己 山田圭子

調査結果

(1) 調査の経緯と経過 (図62、写真185～187)

平成28年度に至り、教育学部より附属山口小学校の雨水管改修工事の計画が提出された。第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(9月16日開催)での審議にて、平成元年度(1989)の調査成果^{註1}から、本来であれば本発掘調査にて対応する事案であるが、開発面積が狭小であること等を鑑み、発掘調査同等の工事立会にて埋蔵文化財保護対応を実施することが承認された。また、工事予定期間は12月から1月となっているものの、工程が小学校冬期休暇期間内に限定されているわけではないことなどが確認され、作業員3名を雇用し、実働5日程度で調査を実施することが承認された。

しかしその後、附属山口小学校より、冬期休暇期間内での工事完了要請があり、終業式翌日の12月21日(水)より重機掘削を開始することとなった。

調査の経過は以下の通りである。

12月21日(水) 重機掘削

12月22日(木) 雨天中止

12月26日(月) 重機掘削

12月27日(火) 包含層人力掘削

12月28日(水) 遺構検出作業

12月29日(木) 遺構検出作業・記録作業

1月4日(水) 遺構検出作業・記録作業

1月5日(木) 記録作業・管路床掘り

(2) 調査の結果(図63・64、写真187・191、表13)

工事による管路床掘り深度より上位に、地山を検出面とする遺構面を確認した。基本層序は以下のと

おりである(図63)。

1. 表土(層厚約20cm)、2. 造成土(層厚約20～30cm)、3. 黄灰色(2.5Y6/1)強粘質土…旧耕土(層厚約10cm)、4. 浅黄色(2.5Y7/3)粘質土…旧床土(層厚約10～20cm)、5. 灰褐色(2.5Y6/2)礫混粘質土…遺物包含層1(層厚約20cm)、6. 灰黄色(2.5Y6/2)礫混粘質土…遺物包含層2(層厚約10cm)。

第6層は調査区東部にのみ見られ、弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器片を含んでいる。砂礫が多量に混ざることから水流により堆積したものと推定される。第5層は中近世の遺物を含んでいるが、その量は少ない。

調査区の中央部以西では、地山と包含層を切り込む形で段が形成されている。当該場所に堆積する土は灰オリーブ色(5Y6/2)強粘質土であるが、これは耕作に関する段差と見られる。

検出された遺構は、土壇2基、Pit3基、溝2条、流路2条であり、その分布は密とはいえない(図63・写真188～190)。埋土は灰色系と褐色系に2分され、前者には土壇1・溝1が該当する。いずれも灰オリーブ色強粘質土の下位に存在しており、耕作に伴う遺構と考えられ、所属時期は少なくとも中・近世にくだると思われる。

他の遺構の埋土は褐色系であり、遺物は確認できなかったものの、既往の調査成果から弥生～古墳時代に属する可能性が高い。

検出した流路2条は北－南方向に走っていると見られ、流路2に関しては西側に向かいさらに深まるものと推測される。流路埋土は砂礫であり、遺物は出土していない。

今回の調査で問題となるのが、平成元年度に実施された污水排水管布設に伴う発掘調査区との位置関係である。報告された位置図(図62)によると、T-3区が今回調査区と重複するはずであり、今回調査区の西端で南北方向のヒューム管を確認していること、今回調査区南北ルート(土層断面B-E)においてもT-3区東西トレンチの痕跡とみられる攪乱を確認したことから、位置関係を復元できるはずであるが、平面図を合成すると、竪穴式住居跡をはじめとする遺構群が流路1・2の下流部に位置することになってしまう。また、現在の污水枡(図63の青○地点)にT-3区の南北・東西トレンチ交点を重ねてもやはり遺構の関係に齟齬が生じるようである。

当館に残された記録では、この問題に対する明確な回答を得ることができなかったが、遺跡の分布状況から、当調査区周辺での開発計画にはなお慎重な対応が求められることには変わりはない。教育学部附属山口小学校は施設の老朽化が進行していることもあり、近い将来の大規模改修工事も予想されることから、開発計画の立案に対しては、早期の埋蔵文化財保護対応が必要と考える。

【註】

- 1) 河村吉行(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校污水配水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』, 山口



写真 187 重機掘削風景 (東から)



写真 188 南側東西トレンチ西端部遺構検出状況 (西から)



写真 189 南側東西トレンチ東端部遺構完掘状況 (南東から)



写真 190 北側東西トレンチ遺構完掘状況 (西から)

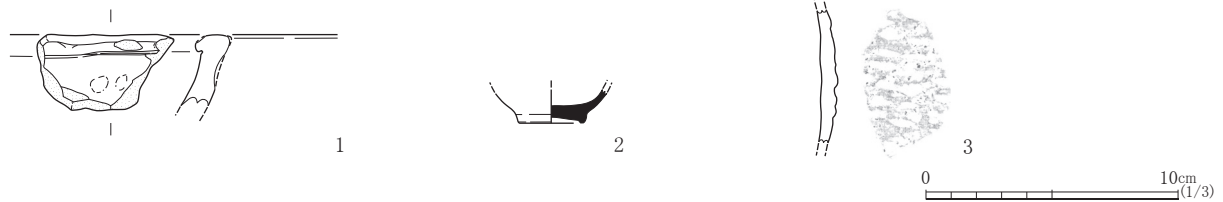


図 64 出土土器実測図



写真 191 出土遺物 (土器)

表 13 出土遺物 (土器) 観察表

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	包含層1	瓦質土器 鉢	口縁部	③残高2.8	①②灰白色(5Y8/1)		0.5~2mm φの長石・石英 含む	
2	包含層1	磁器 紅皿	底部	③残高2.6	①②灰白色(N8/) 素地 灰白色(7.5Y8/1)		精緻	
3	包含層2	弥生土器 甕	体部		①浅黄橙色(10YR8/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)		0.5~2mm φの長石・チャー ト	

法量()は復元値